

兵庫県立長田商業高等学校 令和7年度 学校関係者評価 報告書

| | |
|-------------------------------|--|
| スクールミッション | 神撫商業学燈の理念のもと、自ら考え、自ら学び、商業の専門性を有するとともに、起業家精神をもち、社会の創造と発展に貢献する資質を備え、産業社会で主体的に行動し、地域社会や世界の発展に貢献できる人材を育成する。 |
| スクールポリシー 育成を目指す資質・能力に関する方針 | (1)「誠意の卓越した人となること」を掲げ、他人を思いやる心を養い、自ら主体的に学び、考え行動する生徒を育成する。 (2)「常識の卓越した人となること」を掲げ、規範意識を育み、他者と協調して社会の変化に柔軟に対応できる生徒を育成する。 (3)「技能の卓越した人となること」を掲げ、情報活用能力やビジネスに関する専門性を備えた生徒を育成する。 |

回答方法 4. 非常によくあてはまる 3. おおむねあてはまる 2. あまりあてはまらない 1. あてはまらない

| 評価の観点 | 評価項目 | 番号 | 実践目標 | 平均R7年度(n=18) | 4・3の割合 | 平均R6年度 | 成果 | 課題 |
|---------|-------------------|--|---|--------------|--------|--------|---|---|
| 学校運営 | 学校組織の活性化 | 1 | 各部・学年が教育目標及び重点目標の下、PDCAサイクルによる改善をはかりながら協働的・組織的な取組を行っている。 | 3.50 | 100% | 2.94 | チーム担任がどの学年もうまく機能していると思います。情報共有しながら取り組みができていように思える。 | |
| | 保護者や地域とともにある学校づくり | 2 | ホームページ/SNSの更新や中学校訪問等により、本校の情報や魅力等を発信し関心と理解が深まるよう努めている。 | 3.72 | 100% | 3.35 | 細かくホームページやSNSを活用し、情報発信に努めている。 | まだできることはある。 |
| | | 3 | 学校行事等を通じて保護者や地域と連携して、生徒・保護者・教員・地域が教育活動を通して互いに信頼できる関係づくりを推進している。 | 3.50 | 100% | 3.06 | 学校行事・授業公開週間等に保護者の参加がある程度あり、学校への関係作りが進んでいる。 | 地域との関係づくりは進展したが、保護者との関係性は希薄である。 |
| | 商業高校としての魅力づくり | 4 | 商業科としての魅力を生かし、生徒の特性に合わせてながら多様な商業科目に主体的に取り組ませている。 | 3.39 | 94% | 3.18 | 様々な経験を通して年度を追うごとに、生徒の主体的な活動の成長を感じる。NAGAZONの活動に紐付けて授業をすればよい。 | NAGAZONの活動に紐付けて授業をすればよい。 |
| | 働きやすい職場環境づくり | 5 | 教職員の勤務時間の適正化に向けた取組を行い、教職員の健康に配慮した校内体制を構築している。 | 3.50 | 89% | 3.47 | | NAGAZONイベントの集中する2学期について来年度、見直しが進むことを期待する。 |
| 教職員資質向上 | 校内研修による教職員の資質向上 | 6 | 生徒指導に活かすため、学校の課題に沿った校内研修を充実させている。 | 3.78 | 100% | 3.53 | 個々の生徒指導に向けた情報交換会等が、非常に丁寧に行われている。キャンパスカウンセラーの事案検討会などは役に立っている。研修が多く勉強になる。 | |
| | 授業実践力の向上 | 7 | 公開授業週間を年2回実施し、互見授業を積極的に実施するなど、教員の授業力の向上を図っている。 | 3.78 | 100% | 3.47 | 教員相互の意識付けになっている。授業研究会などもあり、活発化したと思う。意見交換の場を設けており効果あり。 | 見学に向く教員の数が少ない。 |
| | | 8 | ICTを活用した授業、教科横断的な指導、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの授業改善が図られている。 | 3.61 | 100% | 3.24 | 教員個々の意識差はあるが、公開授業等の効果もあり授業改善が進んでいると感じる。共通教科のICT活用が活発。 | |
| 生徒指導 | 生徒の内面的理解 | 9 | 個人面談の実施や声かけにより、保護者と綿密な連携を図り、必要であれば家庭訪問を行っている。 | 3.67 | 94% | 3.18 | 面談日がうまく活用されていたと思う。親身になって取り組んでいる。 | |
| | | 10 | 生徒情報交換会・ケース会議等で生徒に係る情報を職員が共有し、生徒の内面的理解や生徒の状況把握に努めている。 | 3.67 | 94% | 3.59 | 生徒理解につながる情報共有が有意義に行われている。 | 生徒の内部にかかわることや詳細な情報共有は学年所属の先生間でのみ行いがちである。 |
| | | 11 | 発達障害やLGBT、日本語教育の必要な生徒等多様な個性・ニーズに合わせた教育活動を推進している。また、必要に応じて合理的配慮を行っている。 | 3.61 | 100% | 3.24 | | |
| | 基本的な生活習慣等規範意識の醸成 | 12 | あいさつ・言葉遣い・時間を守るなどの基本的な生活習慣を身につけさせている。 | 2.78 | 61% | 2.29 | | 根気強くやるしかない。遅刻が多い。 |
| | 教育相談の充実 | 13 | 多様化する生徒に対応するため、キャンパスカウンセラーによる教育相談を充実させている。 | 3.67 | 100% | 3.53 | | |
| | 健やかな体と豊かな心身の育成 | 14 | 生徒の自己肯定感・自己有用感を高めるとともに、生徒と教員の信頼関係にもとづいた適切な指導を行っている。 | 3.39 | 94% | 2.94 | 生徒は場面によって見せる顔が異なるので、良い面を見せてもらっている先生が率先して生徒を褒めてやってほしい。 | |
| 15 | | 生徒指導講演会や保健講話等を実施して、健全な生活を送るために必要な資質を養っている。 | 3.61 | 100% | 3.41 | | | |

| 評価の観点 | 評価項目 | 番号 | 実践目標 | 平均R7年度 | 4・3の割合 | 平均R6年度 | 成果 | 課題 |
|--------|----------------------|----|---|--------|--------|--------|--|--|
| 進路指導 | 生徒・保護者に対する進路情報提供の充実 | 16 | 進路ガイダンスやインターンシップ等を活用して、継続的なキャリアガイダンスの充実に努めている。 | 3.28 | 100% | 3.06 | 進路の話はデリケートな内容にもなるので先生方が情報共有しながら指導していくのがよい。 | 夜間の学校行事に協力していただくことが難しいことがある。 |
| | | 17 | 「進路のしおり」を活用し、進路指導の充実を図っている。 | 2.94 | 78% | 3.06 | | |
| | 進路に対する個別指導の充実と進路実現 | 18 | 生徒一人一人の進路希望や特徴を把握し、長所を生かした進路実現に向けての指導を行っている。 | 3.50 | 100% | 2.82 | | |
| 生徒の学び | 確かな学力の育成 | 19 | 基礎的・基本的知識・技能の定着を図る指導がなされ、生徒の学習意欲が高まっている。 | 3.33 | 94% | 3.29 | | |
| | カリキュラムマネジメント | 20 | 社会や地域との接点を持ちつつ、生徒が未来を切り拓く力を身に付けるように教育課程の改善を図っている。 | 3.61 | 94% | 3.29 | NAGAZONの活動によって、外部と関わる機会は増えている。NAGAZONの取り組みが有効的である。 | |
| | 生徒の学習状況に応じた学びの体制の確立 | 21 | 生徒の状況を適切に把握した上で、習熟度別授業や少人数授業を適切に実施し、個に応じた学習指導を行っている。 | 3.56 | 94% | 3.24 | | 教員の複数立ちが効果を発揮しているのかどうか、よくわからない。以前に比べ、習熟度に分けて行う授業が減っているように思う。 |
| | 外部人材の活用 | 22 | 外部からの講師を積極的かつ有効に活用し、生徒に幅広い学びの場を提供している。 | 3.89 | 100% | 3.35 | | |
| 特別活動 | 学校行事の充実 | 23 | 生徒会を中心とした校内活動を充実させることで、自尊感情や社会とのつながり意識を高揚させている。 | 3.56 | 100% | 3.65 | | |
| | 人権教育・多文化共生教育の推進 | 24 | 人権映画鑑賞会等を実施し、生徒の人権感覚の涵養に努めている。 | 3.33 | 100% | 3.29 | | |
| | | 25 | 人権教育LHRを計画的に実施し、自他を肯定する態度と共生社会実現への実践力を高めている。 | 3.39 | 89% | 3.24 | | |
| | 学校の特色化・個性化 | 26 | NAGAZON経営の実践的・探究的な学びを通して、主体的に学び考え行動を促す指導を行うとともに、地域に対する愛着心・貢献意識を高めている。 | 3.72 | 100% | 3.12 | | 主体性に欠ける生徒がまだ多い。 |
| 危機管理体制 | 教職員の防災教育に係る指導力実践力の向上 | 27 | 学校防災マニュアルを適宜見直し、家庭・地域等と連携した危機管理体制を構築している。 | 3.39 | 100% | 3.41 | | |
| | | 28 | 防災訓練等の実施により生徒の防災意識を高め、生徒自身が災害時に適切に判断し、主体的に行動する力を育成している。 | 3.61 | 100% | 3.53 | | |
| | 安全な学校づくり | 29 | 救急救命講習の受講により、いかなる時にもまず人命を守るという、教職員の意識と技術を高めている。 | 3.67 | 100% | 3.47 | | |
| | 生徒の安心・安全 | 30 | いじめアンケートを実施し、生徒のいじめ防止や自殺予防に向けた職員研修に取り組み、速やかな情報の共有と対応に努めている。 | 3.61 | 100% | 3.35 | | |
| | 情報モラルの育成 | 31 | SNSに係るトラブルについて授業や講演会等あらゆる機会を通して、情報モラルの向上を図っている。 | 2.94 | 72% | 3.00 | | 最近はあまり取り組んでいないと思う。 |
| 不登校対策 | チーム担任制導入 | 32 | 生徒が相談しやすい教員を選択でき、悩みを相談しやすくすることで、学校への安心感につながり、楽しい学校生活を送れている。 | 3.61 | 94% | 3.24 | | |
| | 中間考査の廃止 | 33 | 中間考査の廃止により、時間的余裕が生まれ、生徒がわかる授業に向けて、改善に取り組んでいる。 | 3.39 | 94% | 3.12 | | |
| | 生徒面談日の設定 | 34 | 複数回の面談日を設けることで、必要なタイミングで生徒への支援を早期から実施できる。 | 3.78 | 100% | 3.53 | | 年間に1人あたり何回実施しているのか、わからない。 |
| | 登校日の設定 | 35 | 夏休みに複数回の登校日(オンライン含む)が設定されたことで、生徒の生活のリズムが比較的維持できた。 | 3.28 | 94% | 3.00 | | |